

作成の趣旨

このマップは、将来、霧島山で噴火が起こった場合に大きな影響がおよぶ範囲を予測したもので、霧島山では、西暦740年以降、50回以上の噴火の記録が残されており、日本でも有数の活動的な火山といえます。記録に残されている噴火のほとんどは新燃岳や御鉢の噴火ですが、今からおよそ230年(前)の760年にはえびの高原周辺でも噴火活動がありました。また、過去数千年間に最も最近の噴火の数百倍もの規模の噴火が発生したこともあります。

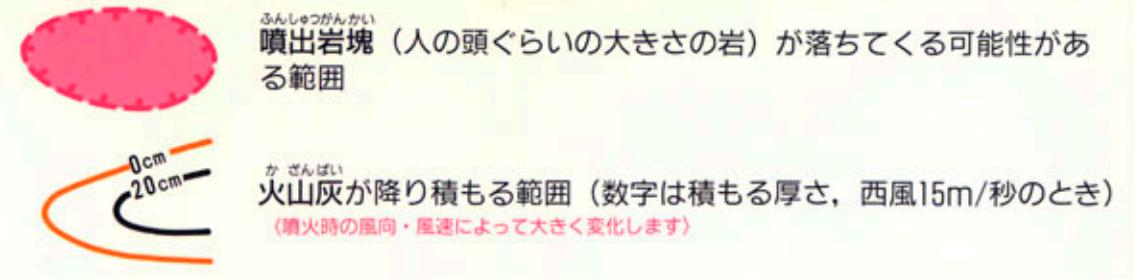
今回マップを作成した霧島山麓の8市町では、住民や観光客の安全を確保するためにいろいろな対策を講じていますが、一番大切なことは、みなさんに霧島山の特徴について十分に理解していただきたいです。このマップは、みなさんに知ったいたい情報を、なるべくやさしくまとめて、いざというときに役に立つようにつくられました。人が集まるところに貼って、日ごろから防災に心がけましょう。

霧島山火山防災マップ

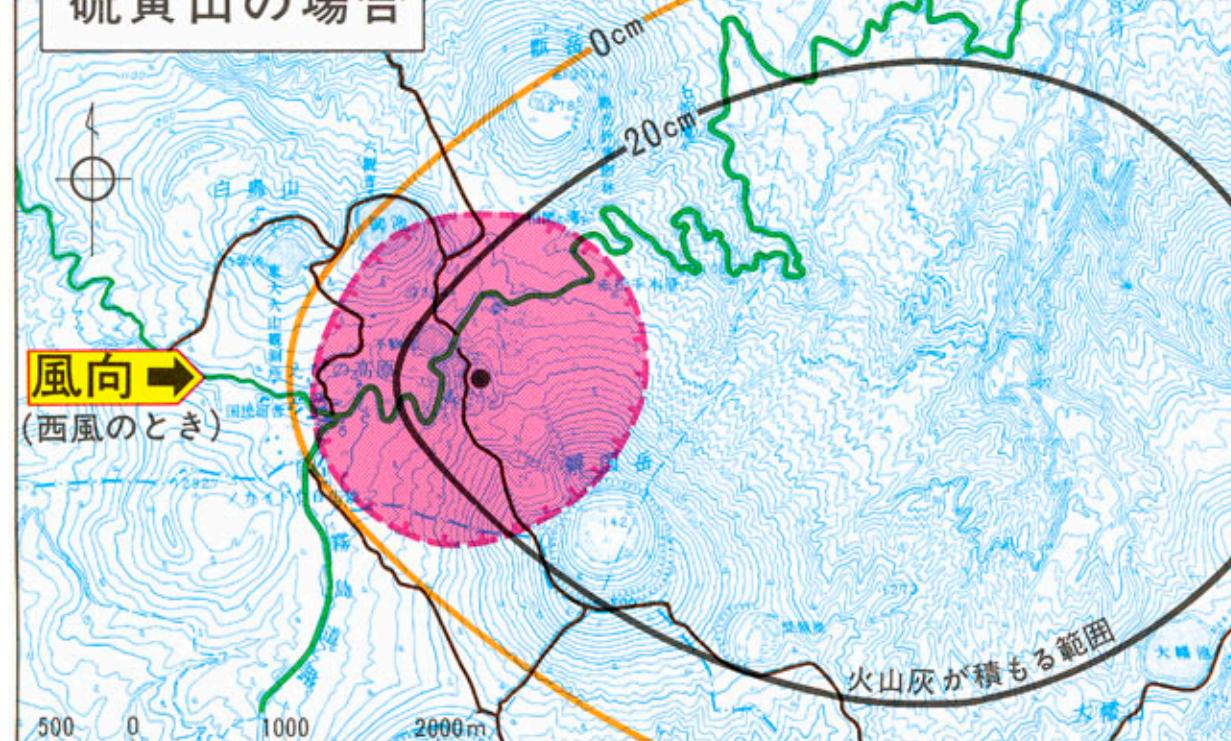
この地図は、建設省国土地理院版の承認を得て、同様発行の20万分の1地勢図を複製したものである。(承認番号:平17認第1017号)



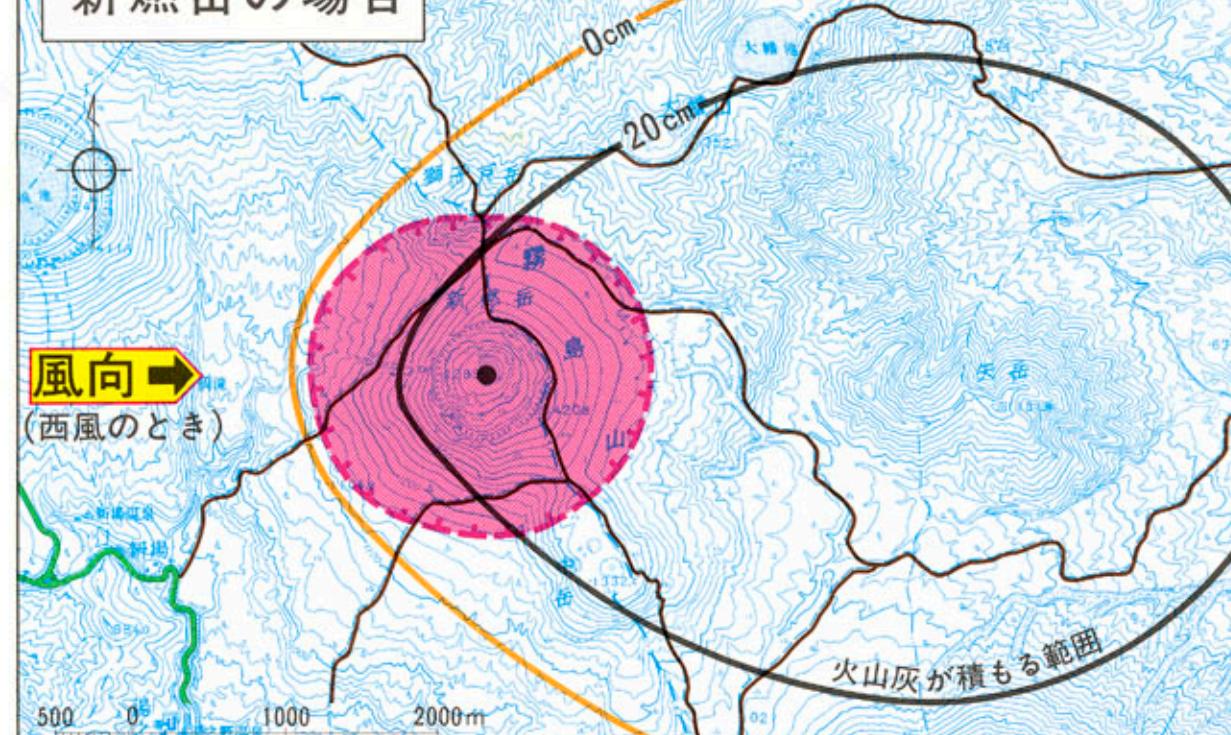
数十年に一度おきるような噴火の影響範囲



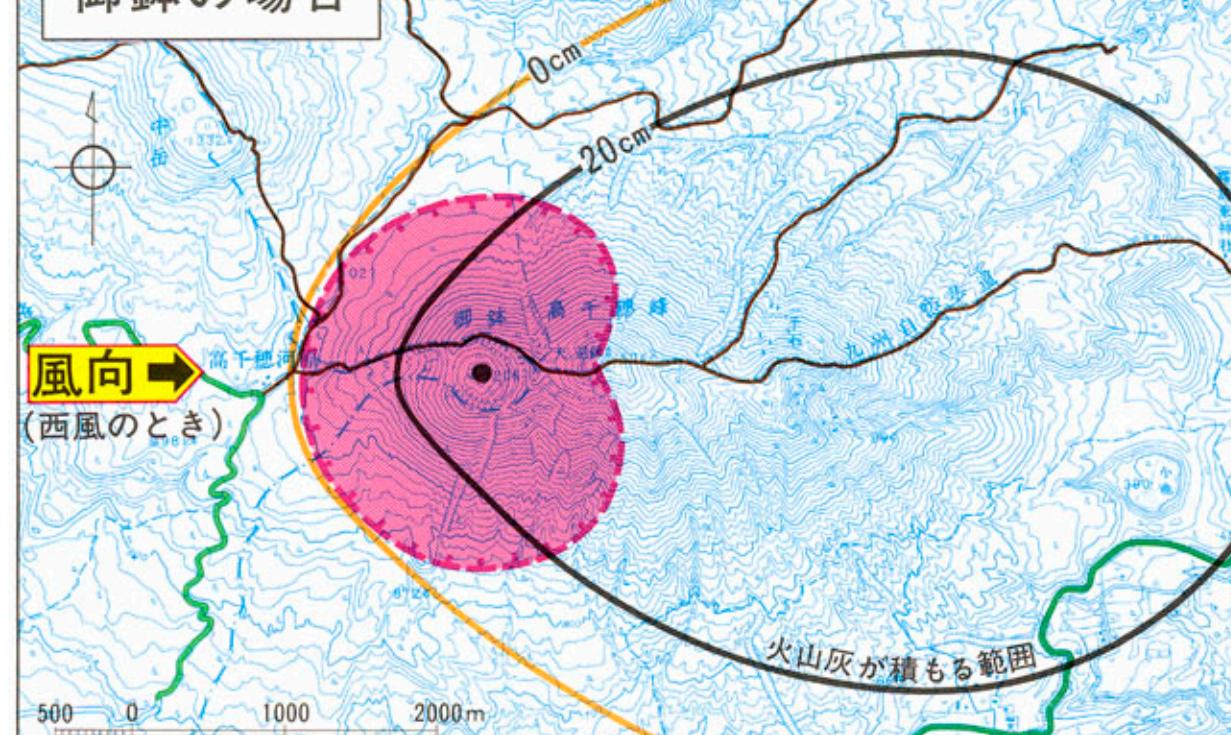
硫黄山の場合



新燃岳の場合



御鉢の場合



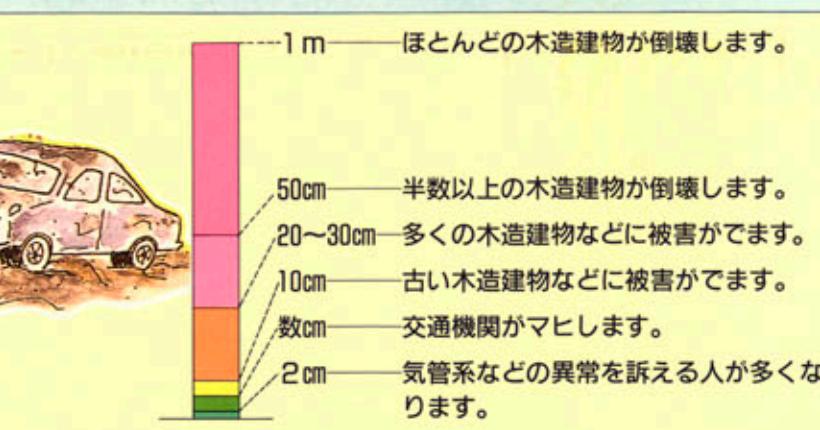
火山情報にはこんな種類が

- 緊急火山情報** 生命、身体にかかわる火山活動が発生した場合に随時発表します。
- 臨時火山情報** 火山活動に異常が発生し、注意が必要なときに随時発表します。
- 火山観測情報** 火山活動の状況を定期的または臨時にきめ細かく発表します。
- 定期火山情報** 霧島山などの常時観測を行っている火山の状況を定期的に発表します。

火山情報の流れ



降り積もった軽石・火山灰など(火砕物)の厚さと被害の関係



火山ガスに注意しよう

火山活動が比較的静かなときでも、噴気口や温泉などから毒性の強い硫化水素ガスが発生しています(上の図ではオレンジ色で塗られた地域です)。硫化水素ガスは空気よりも重いので、くぼ地や地形的に低いところにたまります。天候がくもり、雨の場合は風がないときは、火山ガスが広がりにくく、濃度の高いガスがたまりやすくなります。

濃度の高い硫化水素ガスの中にいると、中毒で意識不明になったり、時に死に至ることもあります。

- 噴火の前にはいろいろな前兆現象が現れることがあります
- 地下水の湧き出し、井戸の水位・味・にごりの変化、水温の上昇
- 温泉の湧き出し、湧出量・温度・色・においの変化
- 新しい噴気、噴気口の拡大、噴気量・温度・色・においの変化
- 地面の温度上昇(温度上昇に伴う草木の立ち枯れ、動物の移動)
- 土地の盛り上がりや沈み込み、地割れ、山崩れ・かけ崩れ
- 川の水の変色・にごり・異臭・魚介類の死滅
- 地震の頻発
- 動物の異常行動
- こうこうといった鈍い地鳴り

すぐに市役所・町役場もしくは消防機関・警察機関に通報!

この図は500年に一度おきるような大噴火の影響を予測したものです

- 想定火口**(噴火する恐れの強いところ)
- 溶岩流・火砕流**(火山灰・軽石を大量に含んだ熱風)におそれられる可能性がある範囲(→は噴火口から流れくる方向)
- 噴出岩塊**(火口から飛びだした直径数十cm程度の岩)が落ちてくる可能性がある範囲
- 火山灰・軽石**が20cm以上降り積もる範囲(→:西風10m/秒、一:東風10m/秒のとき)

(噴火したときの風向・風速によって飛り積もる方向・範囲は大きく変化します。また、これより広い範囲にも火山灰・軽石が散らばり積もります)

●:硫黄山 ●:大幡池 ●:新燃岳 ●:御鉢

その他の災害危険地域

- 火山ガスの噴出地帯**(ガス中毒による被害や小規模な爆発が起ることがあります)
- 噴火後に土石流・泥流が流れくだるおそれのあるところ**

内山 地図上の記号の説明

■:避難場所 ●:市役所・町役場

内山 地図上の記号の説明

■:避難場所 ●:市役所・町役場